

平成 29 年度 ふるさとのづくり支援事業

市 町 村 名		青森県中泊町
事 業 名		鳥獣被害防止忌避剤開発事業
企業等概要	企業等の名称	合同会社ツリーワーク
	代表者氏名	代表取締役 佐々木 嘉幸
	所 在 地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山 6 0 2 番地
	連 絡 先	0173-57-9003
	U R L	—

平成 30 年 12 月現在

【事業者概要】

平成 19 年 7 月に設立された木炭・木酢液・炭入堆肥製造、及びそれらを活用したネズミ・蛇等の忌避剤の製造販売を行う会社。

【事業概要】

◇背景・経緯

平成 2 8 年に中泊町内で鳥獣による農作物被害が 100 万円単位に達し、対策に悩む地元住民から相談を受けた事業者が、従来から製造していた忌避剤を活用して新たに熊等の鳥獣被害対策の新商品「熊にげる」の開発を行ったもの。

◇開発概要

- 木酢液^(※) に世界トップレベルの辛さを誇る唐辛子「ジョロキア」から採れる強刺激成分カプサイシンを配合し、人間に害がなく、熊等の鳥獣が人里に近づかない忌避剤の開発を行った。

(※) 木酢液：炭焼き時に出る水蒸気を冷やしてできる液体。成分は水分が約 9 割、残りは木タール・酢酸・メタノール等、200 種類以上の有機化合物が占める。初期段階では有害物質を含んでいるので数カ月放置した上、ろ過する等の方法で有害成分を取り除いて使用。



木酢液

- ジョロキアについては谷田貝光克東京大学名誉教授からインドで象等に対する忌避効果の研究成果についてレクチャーを受けた。同教授や青森県産業技術センターの山口信哉環境部長の協力を得ながら、ネズミ等の対策で従来から忌避剤として販売していた木酢液とデンプン質（グリセリン）を配合することにより製品を開発。

＜木酢液製造現場＞



木酢液抽出装置



木酢液保存甕

＜ジョロキア生産現場＞



ジョロキア畑



ジョロキアの実

【成果】

◇地域性・特徴

- ・ 化学薬品を主原料とした農薬や類似忌避剤と異なり、地元での炭焼き工程で得られる木の渋み成分が濃縮された木酢液と唐辛子「ジョロキア」から採取したカプサイシン成分が主原料と自然由来の商品となっており、環境保護の観点から意義が認められる。
- ・ また害獣の殺処分や駆除を行わずとも人間と害獣との共存が可能であることから動物愛護の精神にも配慮した商品である。

◇商品化・販売先

- ・ 現在までに中泊町内の林間地に住む住民や県内山間部の住民、事業者から購入希望や問い合わせが寄せられており、6月末時点で測り売りを含め、大小100の合計23万円強の売上を計上。
- ・ 販売先としては当初想定と比べて個人からの問い合わせが多く、法人先では東北電力中里サービスセンターから試験的な購入が予定されている。
- ・ 今回の商品開発では製品は完成したものの、当初見込んでいた以上に原料であるジョロキアの確保に苦戦を強いられた（希少種のため流通量も少なく、海外からの取り寄せが主流となり、忌避実験及び商品開発を進める上で大きな障壁となった。）ため、ジョロキアの苗の育成に取り組み、今年度は100キロの収量を見込んでいる。



熊にげる



携行用「熊にげる」

【今後の展望】

- ・ ジョロキアと並ぶ主原料である木酢液の増産にも取り組んでおり、炭窯の増設を予定。
- ・ 製品化が完了し、今後量産化に向けて原材料のコスト削減と並行して、販路の拡大策として地元以外にも鳥獣対策に悩んでいると思われる森林管理団体、ゴルフ場関係施設や農協関係者向けへの営業を行っていく予定。